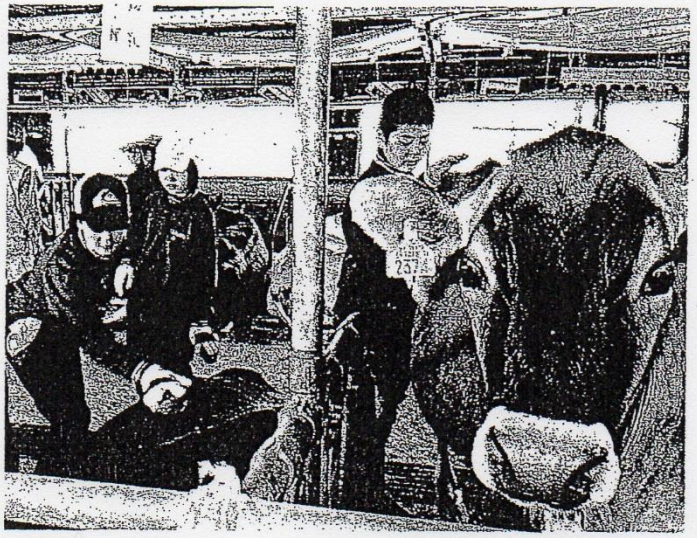
新聞への掲載

・信濃毎日２００８（平成２０）５．９

農林業体験にぎわい

実践大学校 小中学生向け

原村



牛の体を丁寧にブラッシングする生徒たち

原村の八ケ岳中央農業実践大学校が小中学生向けに開いている農林業体験が連日にぎわっている。夏休み前までほぼ毎日申し込みがあり、八日も関東の公立中学二校から生徒計約四百人が訪れ、酪農や植林の作業などを体験した。

農林業体験は、自然に触れることで農業や環境問題に関心を持ってほしいーと一九九五年に開始。参加者は間伐や植林などをする必修の森林体験コースのほか、家畜部門と園芸部門などの全十三コースから一コースを選び実習する。毎年四月から十一月ごろまで開き、首都圏の学校を中心に一年間で約百校、一万五千人程度を受け入れている。

この日、家畜部門の酪農コースを選択した東京都江東区深川第四中学校の二年生十八人は牛の乳搾りやブラッシングなどを体験。恐る恐る牛に近づく生徒もいたが、「超かわいい」などと頭をなでる生徒もいた。同校の荒木琴衣さん(13)は「牛の乳首や乳は温かくて、当たり前だけれど、生きてるんだなって実感した」。

同大学校の下田英雄校長は「農林業は命をはぐくむと同時に、その命を犠牲にすることで成り立つ。子どもたちが自然と人間の関係を考えるきっかけになればうれしい」と話していた。

・長野日報２００８（平成２０）５．１９

夏へすっきり 羊の毛刈り

農業実践大学校 バリカン使い

原村の八ケ岳中央農業実践大学校で十八日、農場で飼育している二匹の羊の「毛刈り」が行われた。羊の提供者の農業、村岡正雄さん(五〇)＝埼玉県深谷市＝を講師に、学生たちが電気バリカンを使い〝毛皮のコート〟を脱がしていた。

村岡さんは同校二年の村岡里菜さん(一九)の父。趣味で飼い始めた羊が三十匹近くに増え、昨春生まれた二匹を秋に同校へプレゼントした。

シートに寝かされた羊は学生たちの腕前に身の危険を感じてか予想以上に神妙。足や胸の周りなどの難しい場所は正雄さんが行い、学生たちは背中を刈った。肌に近い部分はふかふかの真っ白い綿のようで学生たちは「これでセーターを作ればあったかそう」とにっこり。部分的に「トラ刈り」もあったが約三キロの毛を刈ってもらった羊は涼しげに農場内を駆け回っていた。

刈り取った毛は洗浄して毛糸やフェルトにしたり、汚れのひどい部分は鉢植えの底石代わりに活用できるという。同校では「希望者があれば譲りたい」としている。

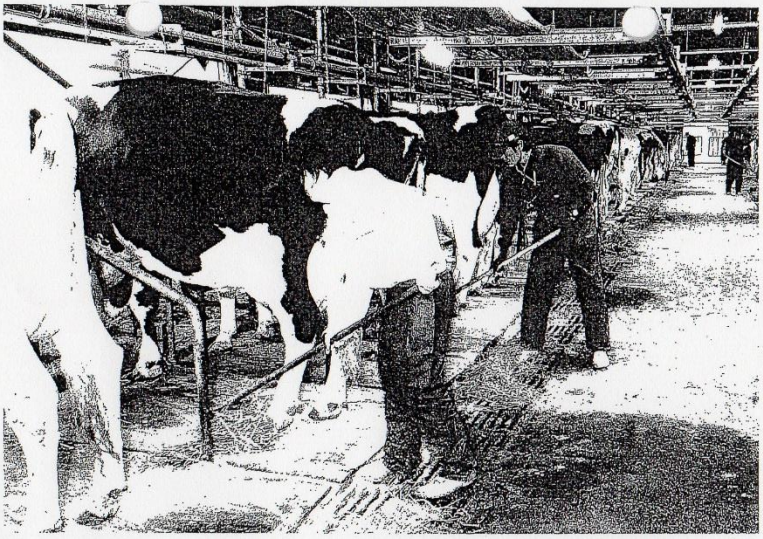
（武井葉子）

初めての毛刈りに神妙な羊。背中の部分を刈られ白いふかふかの毛が見えてきた＝八ケ岳中央農業実践大学校

・信濃毎日２００８（平成２０）５．２４

命を支える農業めざす

原村の八ケ岳中央農業実践大学校



牛舎内を掃除する八ケ岳中央農業実践大学校の学生ら。まだ薄暗い午前4時すぎから実習は始まる

諏訪郡原村の八ケ岳山ろく、標高約千三百㍍にある八ケ岳中央農業実践大学校。世代も経歴もさまざまな人たちが全国から集まり、野菜や花き栽培、畜産などの基礎を学んでいる。入学の動機もさまざまで、就農だけが目的とは限らないが、実習に明け暮れる日々から「命を支える農業」への思いをはぐくんでいる。

実践大学校の朝は早い。まだ薄暗い十九日午前四時すぎ、牛舎で酪農専攻の実習が始まった。作業着姿の学生たちが手分けして、ふんを掃除したり、餌をやったりする。

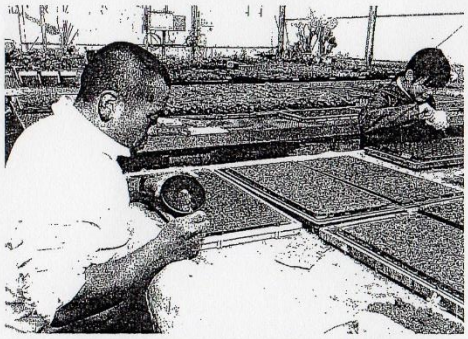
耳にピアスが光る若者もいる。甘えて顔を寄せる牛をなで、額の汗をぬぐいながら作業すること約二時間。残雪の八ケ岳の上に、太陽が高く昇っていた。

一日に四回の掃除や餌やりのほか、牛舎周りの草取りや農機具の修繕などをする。すべて終わるのは午後七時半ごろ。さらに毎週月曜の夜には会議があり、牛の体調や今後の課題、一週間の予定などを話し合う。寮の部屋に帰るころにはくたくただ。

◆……◆

茶髪にピアスの中原沙紀さん(19)は酪農専攻の二年生。神奈川県鎌倉市出身で、中学まで農業には無縁だった。動物が大好きだったことから農業高校に進み、昨年、実践大学校に入った。

「酪農は朝が特に早くて重労働。体がきつい時もある」と話すが、「搾った牛乳を飲んで『おいしい』と言ってもらえるとうれしい。毎日、頑張っていると実感できることが魅力です」とも。「農業は人間の命を支える大切な仕事」と胸を張る。国内の牧場で住み込みで働いてお金をためたら、海外で大規模な酪農を学びたいと夢を描く。



花の種をピンセットでつまみ、土を敷き詰めたトレーにまく豊田基さん(左)

世代・経歴さまざま　ふくらむ夢 実習の日々

花き・果樹専攻の豊田基(もとい)さん(34)＝川崎市出身＝は内装関係の専門学校を卒業。雑貨店や設計事務所、飲食店などで十三年間働いた後、昨年十一月に入学した。

飲食店で調理を担当した際、野菜や肉など食材に興味を持ち、自分で作ってみたいと考えるようになったという。十歳以上も年下の同級生たちと土に触れる日々。花やハーブを種から育てているほか、別の専攻部門の実習にも顔を出している。

豊田さんは、卒業して農業関係の仕事に就くか分からないという。ただ、農業とはかかわり続けるつもりだ。「将来は、自分が作った野菜を使った料理を出す飲食店を開きたい。お客さんにおいしくて安全なものを届けたい」

◆……◆

同校は一九三八(昭和十三)年、「八ケ岳中央修錬農場」として開校。七三年に現在の校名となり、今年で創立七十周年を迎えた。財団法人農村更生協会が運営している。

七つの専攻部門があり、二年制の専修科に四十二人、大学や専門学校卒業後に入学する一年制の研究科に四人が所属する。農閑期の十一―二月は座学で理論などを学び、それ以外は、付属の農場などで実習に汗を流し、農産物加工や販売もする。

近年は、自然や動物が好きというのほかに、農業を通じて環境や食料自給の問題、食の安全や安心について考えたい―と入学する人が増えているという。卒業後の進路も、実家で農業を継ぐ、農業関係団体に就職する、青年海外協力隊に入って途上国で農業を指導する、とさまざまだ。

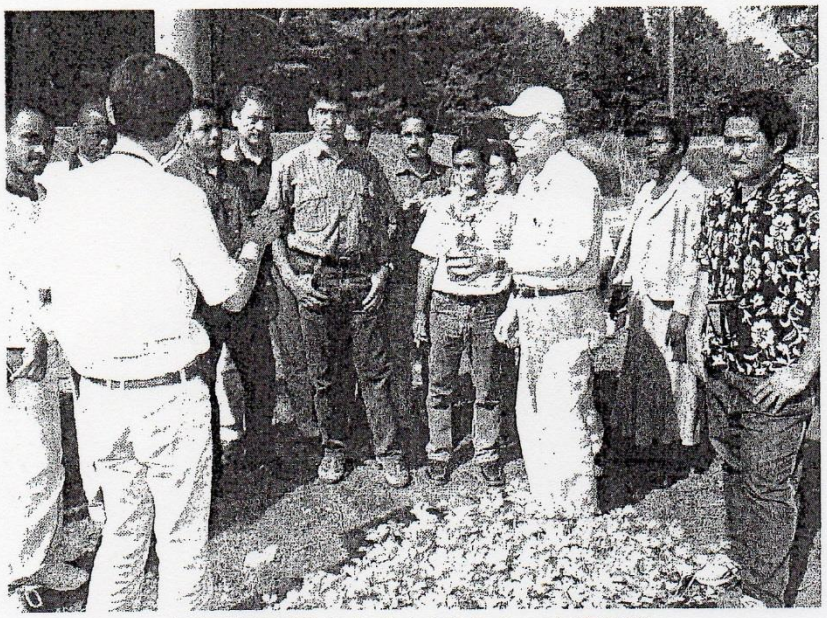
「三K（きつい・汚い・危険）と言われる大変な仕事だが、やりがいと気概を持って取り組む若者たちの姿は頼もしい」と下田英雄校長(67)。「これからの農業の担い手として誇りを持ち、励んでほしい」と期待を込めた。

・長野日報２００８（平成２０）６．１１

ＪＩＣＡ研修員

農村開発の方法学習

八ケ岳実践大学校を見学



下田校長（右から３人目）から、定植を控えたセロリについて説明を聞く研修員ら

ＪＩＣＡ（国際協力機構）の二〇〇七年度集団研修で、二月から野菜の栽培技術などを学ぶために来日しているアジア・アフリカ地域の人たち十二人が十日、原村の八ケ岳中央農業実践大学校を見学した。下田英雄校長から学校の概要について聞いたり、野菜や果物の栽培状況を見るなどして農業農村の開発の方法について理解を深めた。（中村利幸）

一行は十一月までの日程で、茨城県つくば市のＪＩＣＡ筑波国際センターで研修を積んでいる。いずれもそれぞれの国で野菜栽培の研究や普及に当たっている人たちで、同大学校には農民支援システムのカリキュラムの一環で、近年は毎年訪れている。

下田校長は学校の特徴について、「非農家の学生が増えていて、十年前は男子が90％を占めていたのに今は女子が40％」と、最近の学生の動向を紹介。また、広大な耕地と森林を利用して耕畜連携による総合農場を備えている―などとした。

農場見学では、セロリのハウス栽培や養液土耕栽培のイチゴなどについて説明を聞いた。バングラデシュから訪れたムハマド・ナジム・ウッディンさんは、定植を控えたセロリを見て、「初めて見た。成長段階を変えて栽培しているのも興味深い」と話していた。

ＪＩＣＡから研修を受託し、見学を引率した国際耕種研修指導員の長谷川繁弥さんは、「筑波ではジャガイモやマメなどを栽培している。高原野菜や換金野菜は作っていないので勉強になる」と話していた。

・長野日報２００９（平成２０）４．１４

いま 頑張ってます

理想の農家 一歩ずつ

東御市の農場で２年目

日下（くさか） 怜美（さとみ）さん（21）

植物が冬を越し、命を再び輝かせ始める春。つなぎ姿で水田や牛舎を回る作業が慌ただしくなってきた。酪農やコメ栽培を手掛ける東御市の農業生産法人「永井農場」に入って二年目を迎えたばかり。「農作業の効率も自分で考えていろいろ提案していきたい」。これが今春の目標だ。

○

「いかにいい乳を出すか、おいしいコメを作るか。農業の力で牛乳もコメも質を大きく変えるから、わたしたち農業者の責任は大きい」

今月上旬、約四十頭の乳牛を飼育する牛舎。稲わらや牧草を手で牛に与えていた。乳の出や質に影響する牛の病気や体調不良を見分けるため、立ち姿などの牛のちょっとしたしぐさや食欲に気を配る。就職して一年が過ぎ、こうしたきめ細かな注意点を身に付けつつある。

農場の従業員は十人。コメ栽培を中心に、生乳を出荷する酪農のほか、ニンニクやアスパラガスなどの野菜も栽培する。自作したコメからつくるもちなどの加工品販売も手掛けており「みんなが家族のような、温かい雰囲気」という。

今の時期は、朝夕の搾乳に加え、水田では米ぬかを堆肥としてまく作業や、田起こしの手伝いなどの作業がめじろ押しだ。五月中旬に田植えを控え、「コメの栽培シーズンが待ち遠しい」と話す。

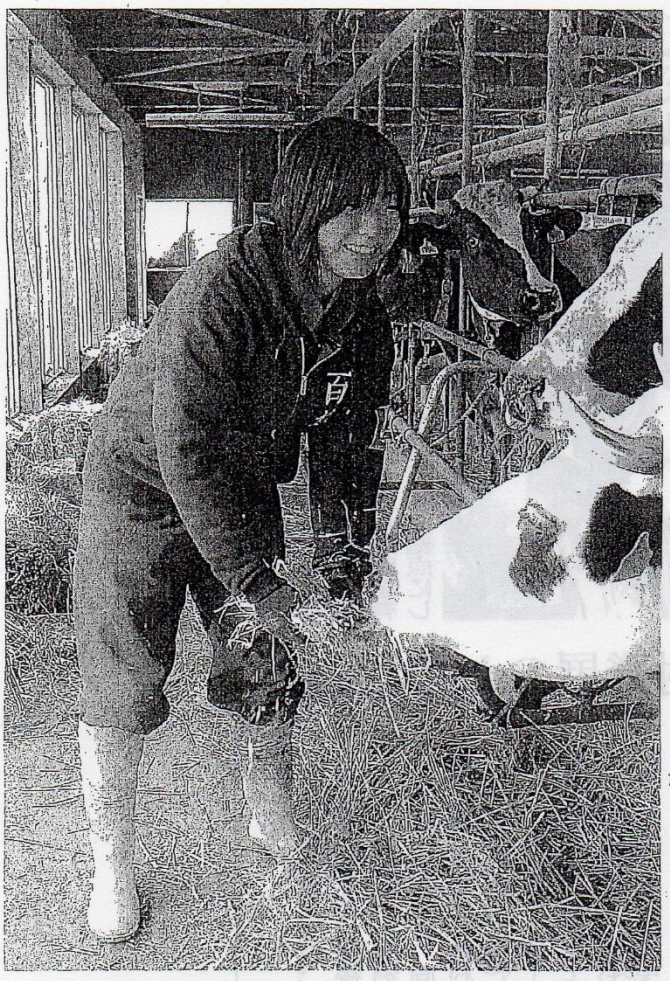
東京都中央区出身で「農業とは縁がなく育った」。農業の道に進んだきっかけは、都内の女子高校一年生の時。夏休みに新潟県のスイカ農家を訪れて収穫作業を体験し「家族がお互いをすごく大事にしていた」ことが印象に残ったからだ。いつしか「農業は職業として素晴らしいな」と思うようになっていた。

高校卒業後、諏訪郡原村の八ケ岳中央農業実践大学校へ進学。自分が農業をやっていけるか不安もあったが、農産物に囲まれて過ごすうちに農作業の楽しさを次々に見つけた。「自分で作ったナスやピーマンのみずみずしさ。新鮮ってこういうことかと気付いた」。農業を一生の仕事にしたい―。大学校での二年間の課程を終えて同農場に就職した。

○

農業の現場で分かったのは「本物の農業経営は、学校で学んだことと違って大変」ということだ。農産物の価格低下、生産資材の値上げ…。農家を取り巻く環境の厳しさを実感する。

だが「農業以外の仕事は考えられない」とも言い切る。最近、住民から預かった水田の管理作業で「今年もありがとうね」とお年寄りに声を掛けられた。農業が地域と深くかかわっていると実感できる面も、やりがいにつながっている。高校時代、「農家の生活スタイルの温かみ」に触れて農業の道に進んだ今、「わたしも理想の農家に少しは近づいていると思います」と笑った。



乳牛に餌を与える日下さん。「飼育環境で乳の出も質も変わるから責任は大きい」

ある日の日下さん

午前6時	起床　朝食　準備
7時半	出勤 牛の搾乳、牛舎の掃除、餌やり
9時半	休憩
10時	田起こしの手伝い、肥料やり
午後 零時半	昼食、休憩
2時	コメの発送の手伝い、野菜の管理
4時半	休憩
5時	牛の搾乳、牛舎の掃除、餌やり
7時半	着替えて帰る 帰宅後は夕食、入浴。大学校時代の友人らと電話やメールをして過ごす
11時	就寝

社長の永井忠さん(65)から

日下さんは行動力のある人で、入社前に自分から申し出て研修にやって来ました。人間らしく自然の中で楽しく仕事をすることを一緒に大切にしていきたいと思っています。いまは農業の良い面がたくさん分かる年齢ですが、今後は、農業の苦しい面もさらに見えてきます。そんなときには、決断力や行動力を発揮して対処してほしい。

農業には農産物の加工や販売の営業活動など、自然相手だけではない仕事もたくさんあるので、総合的な力が必要です。ずっと第１次産業に従事していけるよう、希望や夢を持ち続けてほしいです。

希望や夢 持ち続けて

・長野日報２００９（平成２１）４．２４

体験学習受け入れ開始

農業実践大学校　茅野高生が実習

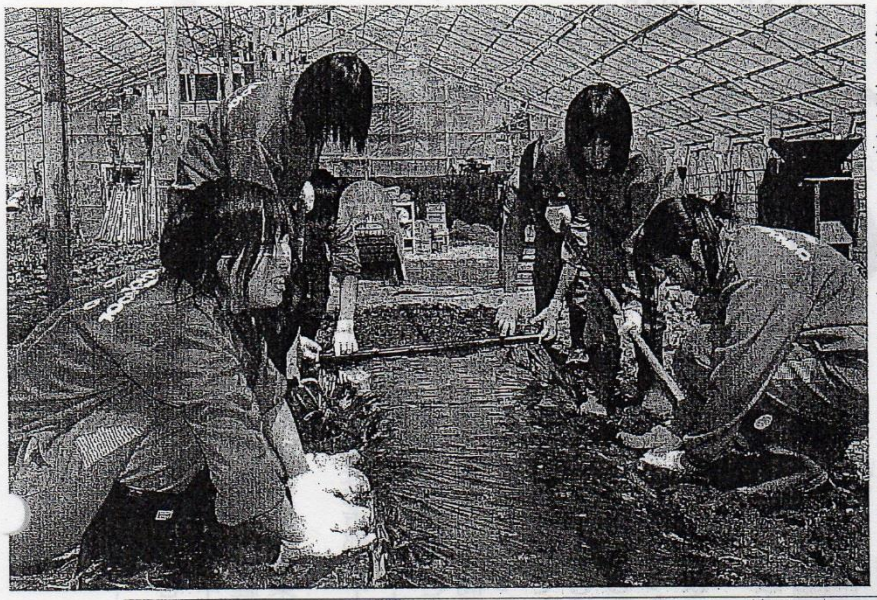
原村中央高原の八ケ岳中央農業実践大学校で二十二日から、今年度の農林業体験学習の受け入れが始まった。初日は茅野市の茅野高校二年生八人が訪れ、ハツカダイコンを収穫したりホウレンソウの種まきなどを行い農作業に親しんだ。

同校の二年生は、進路選択や職業に理解を深める目的で春から秋にかけ、さまざまなコースに分かれて体験学習を行っている。同大学校へは毎年、農業のコースを選んだ生徒たちが訪れている。

ホウレンソウの種はうねを耕し、マルチを敷いてからまいた。生徒たちはマルチを広げたり、うねの両側から土を盛るなど手分けして作業を進めた。引率の田中紀夫教諭は「失敗しても、その中から何かを学びとってほしい」と期待。生徒の朝倉里保さんは「思ったより大変だった。秋の収穫が楽しみ」と話していた。

二年生たちは十月までにあと五回訪れ、季節に合った作業をする。大学校研修部の増田光彦さんは、「今年は生徒たちの希望を聞いて、栽培したいものがあればそれに応えたい」と指導に当たっていた。

今後、同大学校には都市部の小中学校からも多くの児童生徒が訪れる。昨年度は一万八千九百四十八人が体験学習を行った。



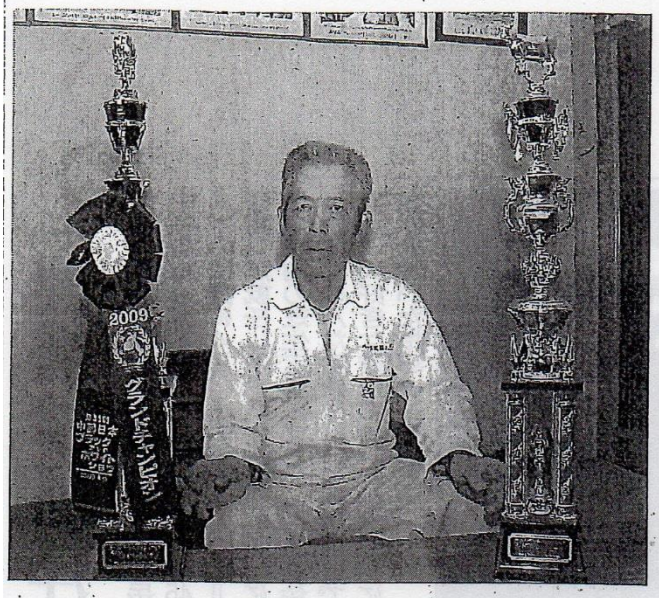
↑……ホウレンソウのマルチを敷く茅野高の2年生たち

・長野日報２００９（平成２０）５．１．

中部のホルスタイン品評会

2部門で最高賞

原村中央高原の八ケ岳中央農業実践大学校は、ホルスタインの品評会第三十四回「中部日本ブラックアンドホワイトショウ」の二部門で、最高賞のグランドチャンピオンを受賞した。同賞の受賞は、第二十九回大会の個体未経産牛の部以来五年ぶり。ダブル受賞とあって、関係者の喜びもひとしおだ。（中村利幸）



トロフィーを前に受賞を喜ぶ五十嵐さん

八ケ岳農業実践大学校

牛群での受賞喜ぶ

品評会は、先ごろ静岡県で開かれた。審査部門は一頭を対象とした個体の部と、同じ親から年を経て生まれた複数の牛を対象とした牛群の部合わせて計十四部門。今回は個体三部門、牛群二部門にエントリーし、二頭一組の「母系牛群の部」（三、四歳の姉妹）と、これに五歳の姉を加えた「自家生産牛群の部」でグランドチャンピンに輝いた。

審査の基準は体形と乳腺から乳の分泌が起こる「泌乳」能力の高さ。子牛の時からの徹底した管理、餌やりなどがいい牛を作る決め手になるという。飼育に携わってきた機械畑作チームの五十嵐輝永さんは、「今までずっと個体でやってきたので、いつかは牛群でと思っていた」と受賞を喜んだ。

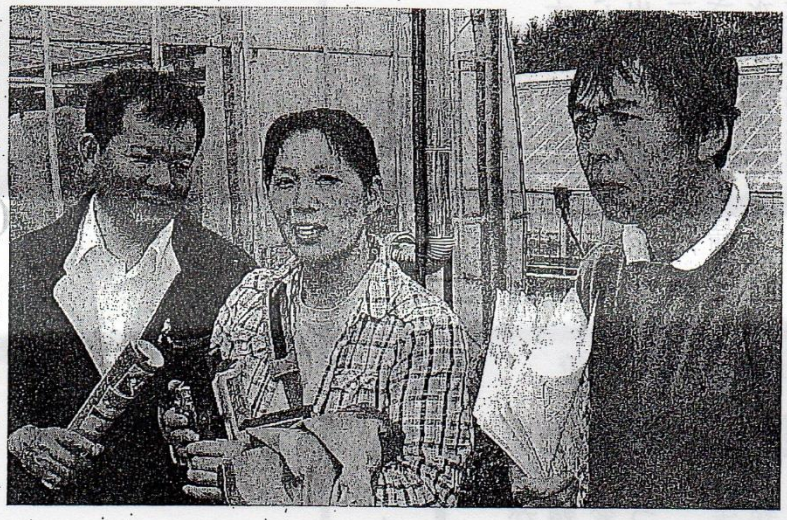
来年、北海道で開く全日本ホルスタイン共進会には学校部門が新設される。今大会を〝前哨戦〟と位置付けて参加した農業高校の姿も目立った。同大学校は、「いい牛を作ることが実践大学校の牛全体のレベルを上げる」として、これからも一般酪農家や農業高校と競い合っていく。

・茅野市民新聞２００９（平成２１）５．２８

台湾の調査団、農家など視察

中央農業実践大学校卒の頼さんが同行

二〇〇〇年から二年間、私費で八ヶ岳中央農業実践大学校に留学し、現在は故郷で農家を営んでいる台湾人女性・頼嬌燕（ライ・チャウイエ）さん㊟のコーディネートで二十二、二十三の両日、台湾宣蘭県水稲育苗協会の調査団一行三十四人が、同校をはじめ富士見町、原村内の農業施設、農家を視察。日本の農業情勢を学んだ。



実践大学校を訪れ[illegible]さん㊟、右は恩師の伊東さん

台湾の農業も確立されつつあり、参加した協会員は面積三十―五十㌶の水田農家がほとんどという。今回は水稲栽培の機械化や販路などへの知識を深めようと計画、同郷で留学経験のある頼さんが、恩師の同大学校農産園芸部の伊東秀樹さんを通じ、視察の橋渡しをした。

日本へ留学した当初は映像技術を身に付けようと、東京で日本語学校に通っていた頼さん。友人の紹介で二〇〇〇年四月から〇二年三月まで、同大学校野菜園芸部（現農産園芸部）に在学した。来日前は美容師を務めていたといい、農業はまったく経験がなかったという。

二年間の研さんを生かし、現在は台湾で水稲、季節野菜の無農薬栽培、食品加工などを手掛けている。農業者として一昨年にも県の招きで同大学校を訪れた頼さんだが、指導した伊東さんは「とにかく働き者、早起きで彼女の畑には雑草がなかった」と当時を振り返る。

「伊東先生は知識がいっぱいで素晴らしい先生だった」と話す頼さんに「留学した学生たちが現地で農業振興に活躍している。うれしいこと」と伊東さん。彼女が同道した調査団は二十一日に来日し、二十六日まで国内に滞在。富士見・原両町村では、同大学校の見学を皮切りに、二日間の日程でＪＡ営農センターや農機具業者、一般農家を視察した。

・信濃毎日２００９（平成２１）８．１

笑顔の交差点

人を呼ぶ農産物直売所 2

八ケ岳中央農業実践大学校

観光拠点に成長

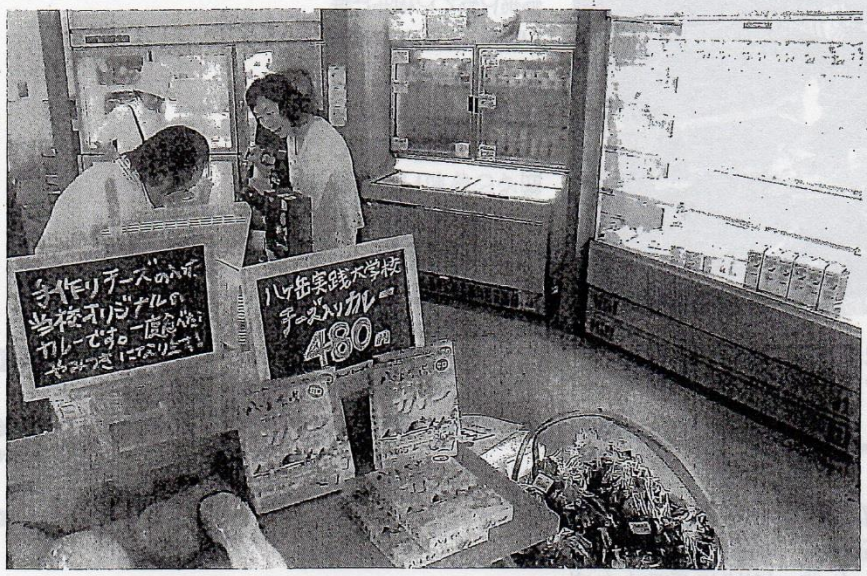
濃厚アイス 自然の味

目前に迫る阿弥陀岳（2805㍍）や横岳（2829㍍）の峰々、吹き抜ける風はさわやか。諏訪郡原村の八ケ岳中央農業実践大学校は、八ケ岳連峰のすそ野に広がる標高約1300㍍の高原にある。

敷地の広さは273㌶。この中に農作地（約50㌶）や、放牧に利用しているエリア（約20㌶）がある。涼しい気候を生かして栽培した野菜や、学生が搾った牛乳から作った乳製品などが大学校の入り口近くにある2棟の直売所に並ぶ。

商品はまさにここで取れたものばかり。校長の小口英吉さん(61)は「安心で安全、しかも新鮮でおいしい」とアピールする。一年間に訪れる人は約30万人に上り、八ケ岳山ろくの観光地の一つとして定着してきた。

直売所は1994年に1棟目、96年に2棟目が完成した。



手作りチーズが入ったカレーや農産物が並ぶ八ケ岳中央農業実践大学校の直売所

農業専門の大学校らしく、烏骨鶏やアロウカナなどの鶏の卵もそろう。甘みの強いスイートコーンを求める人は多く、収穫にはまだ早い7月から「売ってますか」と問い合わせの電話が入るという。

野菜を育て、牛や鶏の面倒をみているのは18～53歳の45人の学生ら。繁忙期には実習として直売所で接客もする。養菜部2年の鈴木康平さん(19)は「一生懸命育てた野菜が買われていくとうれしい。責任を持って育てなければという気持ちにもなります」。1年の高井圭さん(26)は「お客さんの視点が分かるようになってきた」と話す。

販売員の水上宣子さん(68)によると、数ある商品の中でも、搾りたての牛乳を使ったソフトクリームが一番の人気。夏場は1日に数百個が売れるという。男性誌が数年前に組んだアイスクリームの特集のバニラ部門で3位に選ばれたこともある。

小口校長は「自然の中で放牧しているため、牛乳に含まれるカルシウムや脂肪分が高い。それが濃くておいしいアイスクリームにつながっている」と解説する。

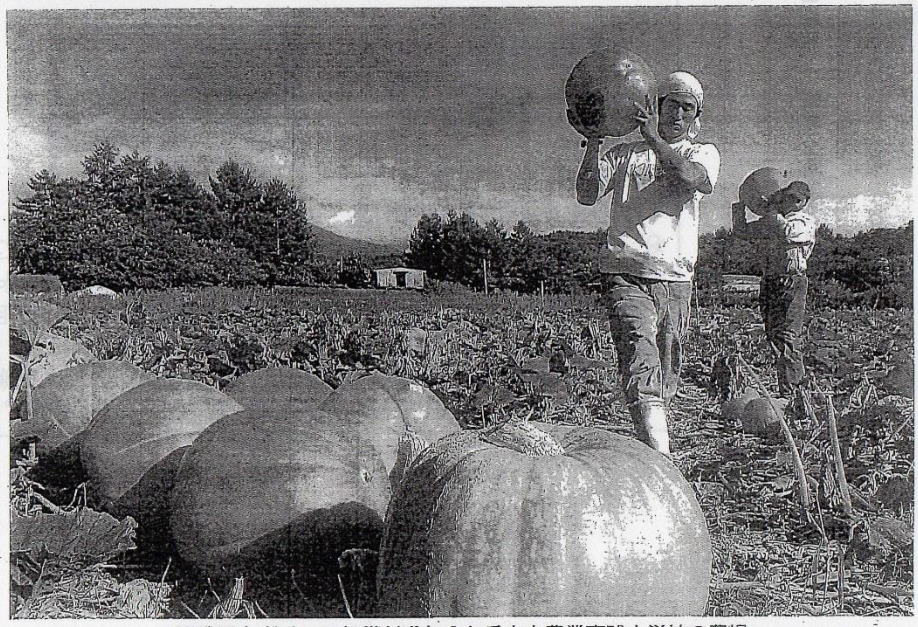
23日午前、直売所近くの芝生に置かれたベンチで都内から訪れた4人グループがアイスクリームを食べていた。バニラを手にした主婦(63)は「自然の中で自然素材のものを食べられるのは幸せ。観光だから野菜を買って帰れないのが残念。近所だったら毎日通ってしまいそう」。直売所は、大自然の中から恵みを得る喜びを訪れた人たちに伝える役割も果たしている。

八ケ岳中央農業実践大学校　1938(昭和13)年、「八ケ岳中央修錬農場」として開場。現在は養菜、酪農など六つの専攻部門があり、高校卒業者や転職などで農業を目指す計45人が学んでいる。2棟の直売所のほか、学生が栽培した花を直売するガラスハウスもある。中央道の原パーキングエリア（諏訪郡原村）のコンビニエンスストアには同校で作られた乳製品などを扱うコーナーが設けられている。

・信濃毎日２００９（平成２１）９．１８

大型カボチャ収穫に汗

八ケ岳中央農業実践大学校



観賞用カボチャの収穫が進む八ケ岳中央農業実践大学校の農場

来月のハロウィーン控え

原村の八ケ岳中央農業実践大学校で観賞用の大型カボチャが収穫期を迎え、学生らが作業に汗を流している。昨年から同校のホームページ（HP）でカボチャ販売をPRしていることもあり、注文は既に2千個ほど。10月31日のハロウィーンを控え、注文は続いており「必要な数が確保できるか心配になるほど」（同校）の人気ぶりという。

品種は「アトランティック・ジャイアント」と「ハロウィン」の2種類。昨年の売り上げが好調だったこともあり、約70㎡だった畑を今年は約1㌶に拡張した。

今年は平均してアトランティックが30、40㌔程度、ハロウィンがバスケットボールほどの大きさに育っているというが、同校専修科2年の島本一良さん（20）は全体的に昨年より小ぶりとみる。島本さんは「運びやすいので、家族でのお祝いに良いのでは」と話している。

同校は10月24、25日に収穫祭を開き、観賞用カボチャの重さを競うコンテストも行う。

・長野日報２００９（平成２１）９．２４

相次ぐ被害に不安

原村にクマ出没

食べ物探して移動か

話題キャッチ

原村で9月に入り、クマによる養蜂箱や農作物被害が相次いでいる。トウモロコシ畑が荒らされた八ケ岳中央農業実践大学校敷地には捕獲用わなが設置されたが、生徒たちが笛や鈴を携帯し不安を抱きながら農作業を行っている。「クマはいない」と言われていた同村の八ケ岳山ろくで35余年ぶりに起きたという騒動。「夏季はクマにとって食料が最も少ない時期で、食べ物を求めて広範囲に移動している」と背景を説明する専門家もいる。

（保延悟）

「いない」と言われた地で…

同村でのクマによる被害は、隣接する茅野市泉野地区で養蜂箱が荒らされた後、同校近くの別荘の養蜂箱、同校のトモロコシ畑と続いて発生。同校では5～8日にかけて、スイートコーン畑と、そこから1キロ余り離れた茅野市地籍の大学校敷地内の飼料用モロコシ畑なども連日荒らされている跡が見つかった。村猟友会の鎌倉治章会長は足跡などから「ツキノワグマの成獣」と推測。両市村と猟友会が畑の近くに捕獲用わなを3基設置している。

同村でのクマ騒動は35年ほど前に上里周辺に現れて以来という。野生動物の生態学が専門の信州大学農学部の泉山茂之准教授によると、八ケ岳周辺でのクマの生息地は南アルプスの釜無渓谷や佐久地方など。同村などの八ケ岳山ろくは1950年代からカラマツの造林が進んだため、食料となるドングリなどの実をつける木が減ってクマが減少。一時は絶滅したという。猟友会員約40年の鎌倉会長も「山でクマを見たことはない」と話す。

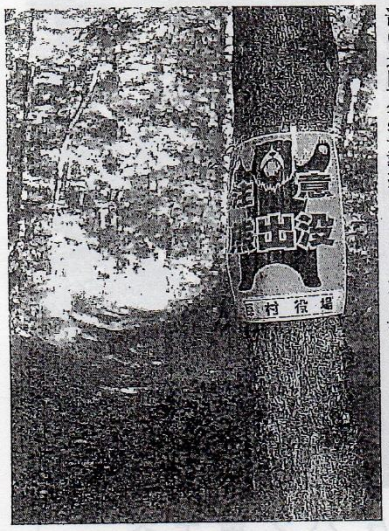
入山時に鈴やラジオ携帯を

クマは、ドングリを大量に食べて脂肪を蓄え冬眠に備えるが、今は奥山に実る前で、食べ物を求めて広範囲に移動しているという。県林務部野生鳥獣対策室も「クマによる農業被害が発生しやすい時期が6～9月」とする。同村での被害について泉山准教授は、「幹線道路などで遮られ移動が難しい南アルプス以外に生息しているクマではないか」とみている。

今年のドングリの生育状況について同対策室は「天候不順の影響で実りが遅れているという声が地元から聞かれる。調査結果を集計中だが、今年は並作かやや多いのではないか」と話す。

同対策室は「クマが山で木の実を食べるこれからの時期は、キノコ採りなどで入山する人との遭遇の可能性が高まる。鈴やラジオを携帯するなどして十分注意してほしい」と呼び掛けている。

野生動物との共存について研究、実践している泉山准教授は「広葉樹の復元でクマがすめるようになり、戻ってきているケースもある。豊かな自然があってこそクマも生息できる」と話している。



クマによる被害があった養蜂箱やトウモロコシ畑の近くの道路沿いに原村が設置した注意を呼び掛ける張り紙

・朝日新聞２００９（平成２１）１１．３

冬の足音、シクラメン出荷ピーク

八ケ岳中央農業実践大学校

原村の八ケ岳中央農業実践大学校で、年末年始の家庭を彩るシクラメンが出荷のピークを迎えている＝写真。同校農産園芸部の伊東秀樹部長は「研修生が種から20種類のシクラメン約１万鉢を育てた。上手に花の手入れをすれば、来年３～４月まで楽しめます」と話している。

直売所を訪れる人も急増。栽培する学生たちが「株が大きく葉の数の多いのを選ぶと、花がたくさん咲きます」などと助言している。家では夜、涼しい場所に置き、終わった花はこまめに取り除く。直射日光よりレースを通した光が適度だという。

１鉢300～３千円。「最近は直径15㌢、千円前後の鉢が売れ筋。花の縁がレースのようなフリンジ咲きが今年の人気です」と同校。問い合わせは同校（0266・74・2111）へ。（遊座武）